

NO.	意見要旨		章	節	頁	対応状況
1	貧酸素化とそれに伴う生態系悪化について記載すべき。	計画原案	1章	1節	10	(閉鎖性水域の水質悪化) ・貧酸素水塊に起因する青潮について記述。
2	1章2節(6)の「地域の特性を踏まえたきめ細やかな対応」は、(1)~(5)の書き振りと異なり分かりにくい。	計画原案	1章	2節	18	6.それぞれの地域の課題への対応 ・6の見出しを修正。
3	イノベーションプロジェクトは殆ど何も言っていない。エリアが括弧で、如何なものかと思う。	計画原案	2章	2節	24	方針1 2.産業イノベーションの創出 各委員の意見を踏まえ、全面的に修正。
	3章					
			環境に重点を置くのもいいが、もう少し「国土形成」らしい計画にすべき。イノベーションプロジェクトもこれでは、みずぼらしい感じがする。			
			経済産業省の新経済成長戦略や国交省の物流施策大綱のうち、地域横断的な共通項目と、首都圏特有の項目として打ち出すべきものを、メリハリをつけて階層化すべき。			
			経済産業省の新経済成長戦略の主要骨子の一つである「イノベーション」などを十分に考慮し、各種研究機構が集積している首都圏だからこそ、温暖化対策や港湾から空港のセキュリティ確保のためのイノベーションを、産官学協働で創出し、さらに米国、EUなど海外に発信していくという視点を盛り込むべき。			
			日本の優れた技術を使って、世界をリードしていくために、大学発のベンチャーの技術力を結集させた先進的な集合体を関東エリアに作れないか。			
	イノベーションプロジェクトで、情報・バイオというように垣根を作らない方がよい。垣根を越えてイノベーションは創出される。					
イノベーションで言えば、官庁の施策ばかり記載しているが、民力を官庁と同じ方向に持って行こうというニュアンスを出さなければいけない。						
イノベーションを支援する様々な機関を一括して、新機関を作ろうとしており、その記載を追加すべき。						
4	首都圏の空港の総合的な使われ方を考えるべき。成田、羽田、茨城を一体化した構想を本計画で描けないか。	計画原案	2章	2節	26	方針1 3.太平洋・日本海ゲートウェイ機能の強化 (太平洋側ゲートウェイ)〈空港〉 ・成田空港と羽田空港の一体的活用や茨城などの地方空港の利用促進について記述。
	3章					
空港の容量拡大のため、空域・航空路を含めた既存ストックの活用が重要というメッセージを記載するべきであろう。地方も一緒にやらなければ十分な国際化は困難なことが、メッセージににじみ出ていくことは重要である。						
5	ゲートウェイプロジェクトで、関東の物を新潟にどう運ぶか考えるべき。トヨタは名古屋から盛岡まで専用のコンテナを使っている。民間の動向も踏まえた計画にしなければならない。	計画原案	2章	2節	27	方針1 3.太平洋・日本海ゲートウェイ機能の強化 (日本海側ゲートウェイ) ・日本海側ゲートウェイとの連携強化について記述。
ゲートウェイプロジェクトで、太平洋側と日本海側が繋がっている事実をもっと意識すべき。日本海側への唯一の軸線である関越が雪や霧で頻繁に止まる。						
6	各空港のキャッチメントエリアをどう設定し、そのために必要な陸上交通網は何かという論立てをすべき。	計画原案	2章	2節	27	方針1 3.太平洋・日本海ゲートウェイ機能の強化 (港湾・空港アクセス) ・首都圏各地と港湾・空港のゲートウェイ間及びゲートウェイ相互間のアクセス向上などについて記述。
全総以来の業務核都市構想も全く触れられていない。						
7		計画原案	2章	2節	28	方針2 1.新たな圏域構造の構築 ・業務核都市など拠点都市の機能向上の取組などについて記述。
人口減少社会における土地利用の積極的誘導について、長期的展望にたつて、方向性だけでも記載すべき。						
8		計画原案	2章	2節	30	方針2 2.活力あふれる都市圏及び地域の形成 (集約型都市構造への転換) ・ご意見の方向性について記述。
かつての新興住宅地では、放置された空き家が地域全体の資産価値を下げ、ゴースタウン化に繋がる。地域の空き地を住民に再配分するある種の区画整理の仕組みなど、行政で青写真を描けないか。						
9	肝心のニュータウン問題に焦点が当たっていないのは不思議ですらある。	計画原案	2章	2節	32	方針2 3.生活の質の向上と良好な居住環境の形成 (ニュータウン等の再生) ・ニュータウン等の再生について記述。
中古住宅市場の活性化のために必要となる住宅の長寿命化の視点を記載すべき。						
10		計画原案	2章	2節	33	方針2 3.生活の質の向上と良好な居住環境の形成 (良好な住宅ストックの形成・活用と長く大切に使う社会の実現) ・長期優良住宅の取組について記述。

NO.	意見要旨		章	節	頁	対応状況
11	地域間交流により、農山漁村を振興するには、都会のライフスタイルを変えることが必要で、何かアイデア出しができないのか。	計画原案	2章	2節	45	方針5 2.都市・農山漁村の交流・連携 ・多くの企業の本社が所在する首都圏の都市部における仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現について記述。
	観光や二地域居住を促進するために必要となる、ワーク・ライフ・バランスの実現を、計画に位置づけるべき。		3章	5節	65	20.地域間交流・二地域居住推進プロジェクト (1)都市と農山漁村との交流拡大 ①に、多くの企業の本社が所在する首都圏の都市部における仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現について記述。
	ワーク・ライフ・バランスにしても、最も悪い関東でこそ、進んで言及すべき。					
12	行政課題を整理した上で、国・行政・住民の役割分担を明確にし、誰がいつまでに何をやるのか、明確にすべき。	計画原案	3章		47	リード文 ・現時点では、プロジェクトの具体化が不十分であり、プロジェクト個々の役割分担を記述することが難しいため、本文中に今後の実施に向けた取組の中で対応する旨を記述。
	行政がやるべきこと、民間がやるべきこと、新たな公がやるべきことを整理すべき。					
	農水省や厚労省など他の省庁と十分に連携をとって、プロジェクトを推進してもらいたい。					
13	プロジェクトを今後どのように実行していくかについては、4章で改めてより具体的に書くべきではないか。	計画原案	3章		47	リード文 ・モニタリング指標項目等の設定について記述。
	「選択と集中」に加え、戦略ターゲットの設定即ちマイルストーンの設定、及びPDCAの評価メカニズムを検討すべき。		4章		69	2.計画のフォローアップ ・PDCAサイクルやモニタリングなどによるフォローアップについて記述。
14	顔づくりプロジェクトは、誰に対するメッセージなのか、観光客か、国民か。言葉だけ「顔」と言っていて、十分な議論がなされていないのではないか。	計画原案	3章	1節	47	1.国際ビジネス拠点強化プロジェクト
				2節	49	2.産業イノベーション創出プロジェクト (3)産業イノベーションを支える基盤の構築 54 7.街道・歴史まちづくりプロジェクト (1)歴史的風致を後世に継承する歴史まちづくり ・旧(6)日本の顔づくりプロジェクトを分解し「経済・金融・文化」を中心に新1.を新設するとともに、「科学技術拠点」を新2.に、「歴史的景観」を新7.に移動。【別紙参照】
15	当市は、その水源を地下水と利根川に依存しており、それらの汚染が深刻な問題。上下水道の敷設のための財源を単一自治体で賄うことは難しく、今後は広域的運用が必要。	計画原案	3章	2節	54	6.利根川・荒川おいしい水プロジェクト (1)安定的な水資源の確保 ②に、水循環の健全化について記述。 (2)安全でおいしい水の供給 ①に、下水道等汚水処理施設の整備について記述。 ②に、取水施設・排水施設の配置の適正化、水道施設の整備について記述。
	おいしい水プロジェクトで、取水口と排水口の配置の見直しについての記述を入れるべき。					
	おいしい水プロジェクトで、平野部の雨水を有効するなどの水循環の健全化を記載すべき。					
16	五街道ばかりでなく、風景の街道や文化の街道、街道沿いにある歴史的街並みなどをネットワークとして繋いでいくというのは意味がある。それらをマップ上に落とし込んでいくと説得力がでる。	計画原案	3章	2節	54	7.街道・歴史まちづくりプロジェクト ・五街道に限らず、街道や歴史まちづくりのプロジェクトに修正。
17	農山漁村プロジェクトで、林業の強化のため、国産材住宅の普及とその背景にある住民の意識改革を関連づけて記載すべき。	計画原案	3章	2節	56	8.農山漁村の活性化プロジェクト (林業の強化) ③に、地域材の活用について記述。
18	大規模地震対策プロジェクトで、小さな津波でもゼロメータ地帯が浸水してしまうことを意識した書き方にすべきで、「港湾の耐震化」だけでは少し弱い。風水害プロジェクトでの高潮対策の記載ぶりと比較すると、いかにバランスが悪い。	計画原案	3章	3節	57	9.大規模地震災害対策プロジェクト (2)津波対策 ・プロジェクトに津波対策を追記。
19	風水害プロジェクトで、ハザードマップにしろ水防体制にしろ、「つくる」だけでなく、如何に運用するかを強調した記述にすべき。	計画原案	3章	3節	58	10.風水害対策プロジェクト (1)大規模水害対策② (2)都市型水害対策② (3)高潮対策② (4)土砂災害対策② ・各種のハザードマップの作成・活用による避難対策の強化について記述。
	2章2節だけでなく、風水害プロジェクトでも、「温暖化への適応策」を記載すべき。 森林の整備が自然保水力の向上に繋がるかは、科学的根拠は曖昧。材木の流出や土砂崩れを防止できるという意味で、「災害源の抑制」という整理にすべき。	計画原案	3章	3節	58	10.風水害対策プロジェクト (4)土砂災害対策 ・森林の整備は土砂災害対策のみに記述。 (5)地球温暖化にともなう影響への対応 ・地球温暖化への適応策を追加。
21	ダム底に堆積する土砂の浚渫、既存ダムの高上げによる発電能力の強化などを記載すべき。	計画原案	3章	4節	59	12.地球温暖化対策プロジェクト (1)低炭素型の地域づくり ③に、既存ダムの維持・更新による水力エネルギーの供給推進について記述。
22	泳げる東京湾プロジェクトで、雨水時における合流式下水道からの越流(通称「CSO」)に対する対応を記述すべき。	計画原案	3章	4節	62	15.泳げる東京湾・水環境再生プロジェクト (1)陸域における水環境改善 ①に、合流式下水道の改善について記述。
23	循環型社会プロジェクトで、キャンペーンや、建設残土のリサイクルなど整備局が関与できる施策だけでなく、再利用・再生利用を可能とする物流システムの整備などについても記載すべき。	計画原案	3章	4節	63	17.循環型社会形成推進プロジェクト (3)再生利用 ②に、静脈物流システムの構築について記述。 (5)産業廃棄物の広域的な適正処理 ・地域の環境に配慮した広域的な廃棄物処分容量の確保について記述。
	循環型社会プロジェクトで、最終処分場の確保と併せて、迷惑を受け入れる側の地域の保全について、記載すべき。					

NO.	意見要旨				対応状況
		章	節	頁	
24	3章5節は、人材が大きく関わるべきプロジェクトであり、啓発や人材育成についても記載すべき。	計画原案	3章	5節	64 19.広域観光交流推進プロジェクト (1)地域と観光事業者等の連携による魅力ある観光地の形成 (3)に、観光地域プロデューサーの発掘・育成について記述。 (3)観光旅客受け入れ体制の整備 ・ボランティアガイドの育成について記述。 65 20.地域間交流・二地域居住推進プロジェクト (1)都市と農山漁村との交流拡大 ①に、プロモーター的役割を果たす人材の育成について記述。 66 21.北関東多文化共生地域づくりプロジェクト (1)コミュニケーション支援 ②に、多言語で対応できる人材の育成について記述。
25	場所が特定されたプロジェクトとそうでないプロジェクトがあるが、整理を要する必要があるか。 富士箱根伊豆プロジェクトは唐突。説得力のある整理をすべき。 顔づくりプロジェクトで、富士山は「顔」には該当しないのか、視覚で分かることがよい。	計画原案	目次		第6節 首都圏域を越えた施策横断的な地域連携の実現 ・首都圏域を越え、かつ施策横断的プロジェクトとして第6節を新設し、旧(15)と旧(23)を移動。また、新24を新設。【別紙参照】 3章 6節 67 22.富士箱根伊豆交流圏プロジェクト (5)国際的な評価の向上(世界に向けたPR) ・富士山に関する取組について記述。
26	少子高齢化プロジェクトで、ここで示された公的賃貸住宅と福祉施設との一体的整備のイメージは、老人を一居住区に押し込む、廃捨て山のような印象を持たれてしまう可能性もある。絵図は時に誤った固定的観念を植え付けてしまうので、工夫をされるとよいと思う。例えば、一戸建ての家から道路がでて、福祉・医療施設に繋がり、道が介護予防に使えるようなイメージも必要ではないか。	説明図表			5 5.少子高齢化に適合したすべての人にやさしい地域づくりプロジェクト 高齢者等が安心して暮らせる地域づくり ・ポンチ絵を変更。
27	地球温暖化対策プロジェクトで、地域冷暖房システムは、東京湾再生と逆行する概念であり、全面に出してPRする内容ではない。	説明図表			12 12.地球温暖化対策プロジェクト 低炭素型の地域づくり ・地域冷暖房システムのイメージのポンチ絵を削除。

プロジェクト構成の新旧比較表

第3章 新しい首都圏の実現に向けた地域の戦略(旧)

第1節 日本全体を牽引する首都圏の国際競争力の強化

- (1) イノベーション創出プロジェクト
- (2) 太平洋・日本海ゲートウェイプロジェクト

第2節 人口約4,200万人が暮らしやすく、美しい地域の実現

- (3) web(蜘蛛の巣)構造プロジェクト
- (4) 少子高齢化に適合したすべての人にやさしい地域づくりプロジェクト
- (5) 利根川・荒川おいしい水プロジェクト
- (6) 日本の顔づくりプロジェクト
- (7) 五街道・歴史街道魅力アッププロジェクト
- (8) 農山漁村の活性化プロジェクト

第3節 安全で安心な生活が保障される災害に強い圏域の実現

- (9) 大規模地震災害対策プロジェクト
- (10) 風水害対策プロジェクト
- (11) 火山噴火災害対策プロジェクト

第4節 良好な環境の保全・創出

- (12) 地球温暖化対策プロジェクト
- (13) 森林・農地保全推進プロジェクト
- (14) 南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト
- (15) みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむプロジェクト
- (16) 泳げる東京湾・水環境再生プロジェクト
- (17) 泳げる霞ヶ浦・水質浄化プロジェクト
- (18) 循環型社会形成推進プロジェクト
- (19) 南関東大気汚染対策プロジェクト

第5節 多様な主体の交流・連携がより活発な圏域の実現

- (20) 広域観光交流推進プロジェクト
- (21) 地域間交流・二地域居住推進プロジェクト
- (22) 北関東多文化共生地域づくりプロジェクト
- (23) 富士箱根伊豆交流圏プロジェクト

第3章 新しい首都圏の実現に向けた地域の戦略(新)

第1節 日本全体を牽引する首都圏の国際競争力の強化

1. **【新規】**国際ビジネス拠点強化プロジェクト
2. 産業イノベーション創出プロジェクト
3. 太平洋・日本海ゲートウェイプロジェクト

第2節 人口約4,200万人が暮らしやすく、美しい地域の実現

4. web(蜘蛛の巣)構造プロジェクト
5. 少子高齢化に適合したすべての人にやさしい地域づくりプロジェクト
6. 利根川・荒川おいしい水プロジェクト
7. 街道・歴史まちづくりプロジェクト
8. 農山漁村の活性化プロジェクト

第3節 安全で安心な生活が保障される災害に強い圏域の実現

9. 大規模地震災害対策プロジェクト
10. 風水害対策プロジェクト
11. 火山噴火災害対策プロジェクト

第4節 良好な環境の保全・創出

12. 地球温暖化対策プロジェクト
13. 森林・農地保全推進プロジェクト
14. 南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト
15. 泳げる東京湾・水環境再生プロジェクト
16. 泳げる霞ヶ浦・水質浄化プロジェクト
17. 循環型社会形成推進プロジェクト
18. 南関東大気汚染対策プロジェクト

第5節 多様な主体の交流・連携がより活発な圏域の実現

19. 広域観光交流推進プロジェクト
20. 地域間交流・二地域居住推進プロジェクト
21. 北関東多文化共生地域づくりプロジェクト

第6節 首都圏域を越えた施策横断的な地域連携の実現

22. 富士箱根伊豆交流圏プロジェクト
23. みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむプロジェクト
24. **【新規】**FIT広域交流圏プロジェクト

※1

※1…旧(6)日本の顔づくりプロジェクトを分解し、「経済・金融・文化」を中心に新1.を新設するとともに、「科学技術拠点」を新2.に、「歴史的景観」を新7.に移動。

※2…首都圏域を越え、かつ施策横断的なプロジェクトとして第6節を新設し、旧(15)と旧(23)を移動。また、新24.を新設。

※2

※2